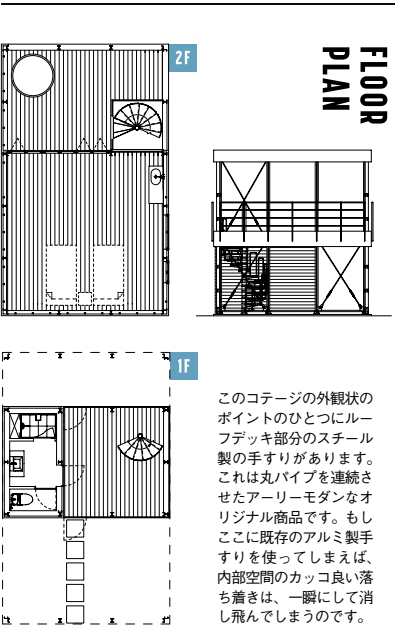




硬質な艶消しの鉄骨と木質の天井。そして柔らかそうなベッドやシーツ。この取り合わせが“カッコよくて、落ち着ける”というワンランク上のリラックス感を演出します。興奮しているのに、ゆったりと落ち着ける。夜はスポットライトに照らされた鉄骨がさらに愛着を増幅します。

2F Interior

オリジナルの鋼鉄製螺旋階段がある半戸外の玄関スペースから、クルマを停車する場所を望む。外部からの適度な光を取りこむウッドのルーバーはアクティブ感を演出し、艶消し鉄骨にメリハリとリズムを与えてくれます。豊富な観葉植物が、空間演出のポイントなのです。

Entrance

デイトナが提案する
新しい建築のカタチ



Monthly
Theme

ニッポンの旅も変わっていく コテージ型宿泊施設の実例

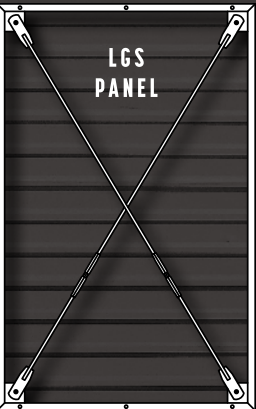
鉄骨の素材感と大自然のコントラストを静かに楽しむために、
落ち着き、カッコよさが同居した、新しいモーターライフ型コテージの誕生です。

交通手段や通信手段の変化とともに、目的意識を持って大自然の真ただ中で過ごすコンドミニアム形式の旅行が静かなブームとなっています。日本に於けるこのブームは、そもそも北海道のニセコに通うオーストラリアのスキーヤーたちに教えてもらった自然の楽しみ方と言えます。余分なサービスは必要とせず、大自然で目的を満喫することに集中する宿泊スタイル。本誌でも何度かご紹介している、出雲のモーターリゾートも四季折々の日本海と山陰独特の夕日を感じるために、国内はもとより欧米からもお客様が詰めかけています。

ます。トップシーズンはもちろん、オフシーズンでも予想を大幅に上回る大盛況。また、出雲ではほとんどのグループ宿泊客が、施設側でセッティングしている地元肉や魚のBBQを注文。板前も仲居さんにも必要ない業態。当然運営経費は軽いです。

植物をふんだんにレイアウトしたジヤングルのような趣。鉄骨の素材感と豊穣なグリーンとのコントラストが、この開放感を増幅するのです。螺旋階段を上がって2Fへ。そこにはプライベートなイメージのルーデッキとジャグジーがあり、その先には豊かな寝室が。寝室は余分なデザイン要素を削ぎ落としながら、ウッド系の温かみと、露出した鉄骨の素材感を調和。それに外部の大自然やグリーンとのコントラストが、組み合わせられることで、落ち着きのあるカッコよさ、という新感覚の空間が出来上がるのです。

CASE 37



×
38
×5棟
PANELS

What's DAYTONA HOUSE ?

デイトナハウスを構成するのは、LGSと呼ばれる軽量鉄骨のパネルで、厚さ3.2mm、幅12.5cm、厚み5cmの「Cチャンネル」と呼ばれる部材を、横幅180cm、縦270cmの長方形に溶接して製作しています。対角線のクロスしたパーツは、「ブレース」と呼ばれる筋違いで、力の伝達を受け持つ大切な役割を持っています。“柱”と“梁”と呼ばれる縦と横の部材を使って軸組を作っていく一般的な建築とは違って、デイトナハウスはこのLGS パネルを連結することで住宅、ガレージ、別荘、店舗、マンションなどの様々な建築を可能とする、全く新しいカタチのシステムなのです。つまりこのLGS パネルを使った建物全てがデイトナハウスと言う訳です。パネルの枚数を数えるだけで、建築の広さ、およその予算がイメージできる分かります。パウダーコーティングが施されたその鉄の素材感が醸し出すハードボイルドな空間のテイストも持ち味です。

www.daytona-house.com

● INFORMATION
LDKinc.

代表: 玉田 敦士
www.ldk.co.jp
03-6228-4933

デイトナをはじめ、カーマガジンでの長期連載、ムック本であるCAR&HOMEにて、常にクルマと住宅の関係について提案し続けてきた建築プロデュース会社 LDK inc. 建築設計はもちろんのこと、建築システムの開発や商品開発も行う。

住むだけじゃない！
GLBの新しい使い方

写真はエリア053を賃貸して、女性用のエステサロンを営業している実例。1Fには経営者の友人のハーレーが鎮座する。この絶妙のバランス故、大繁盛店として継続中。そのほかにも事務所、SOHO、工房アトリエなど、いろんな使い方ができるところがGLBのもう一つの魅力なのです。

イベント終了後は
エリア053で打ち上げ！

サンドカーニバルが終了後、主催者グループをエリア053に招いてバーベキューを囲んだ打ち上げ大会を行った。艶消し鉄骨に共鳴する競技参加マシンを見ながら、あおるビールは言うこと無し。来年の計画話に早くも花が咲く。街中のバイク好きのハブになっている人たちとの交流で、エリア053自体もバイク好き＆クルマ好きのハブになる日も近い。



EVENT REPORT

GLBを普及すべくサンドカーニバルに出店！！



エリア053が出店したのは、北海道初のモーターサイクルオンリーのサンドドラッグレース『サンドカーニバル』。自分達でできる限りの事をやり、あまりお金をかけずとも皆が楽しめる事をコンセプトに、主催者の計良さんが手弁当的に2017年にスタートしたイベント。会場となるのは、今や全国から6万人以上のサーファーが集まる浜厚真で、ここにある広大な砂浜を使用して競技が行われるのです。レギュレーションは、リアサイドショックカリジットフレームなら、メーカー、年式、エンジン形式は問わないという至ってシンプルなもの。そんな国産、外車問わずの様々なマシンが、真っ青な海をバックに砂埃を巻き上げながら駆け抜けるシーンは見ていてとても楽しいし、アットホームな運営方法も北海道の大地にピッタリな、とてもまったりして素晴らしいイベントなのでした。



エントリーマシンの多様さがこのイベントの魅力

KX80やVマックスという大小問わない排気量の国産勢から、王道のハーレー勢などエントリーは多岐に渡り、各々オフタイヤやバルーンタイヤをセットし競技に臨む。レースは2台同時にスタートし、先にゴールがした方が勝ち上っていく分かりやすいトーナメント形式を採用。



レースはレディース、シングル、レギュラーの3クラスに分けられて行われる。レギュラークラスの優勝はGSX750Sの松岡さんで、2位はマッハ500SSの緑川さん。



PROPERTY / 北海道苫小牧 AREA053

オーナー自ら遊ぶ積極賃貸経営

アパートの大家さんご自身が、地元のモーターイベントに協賛し、ブースを出して地元のモーターフリークと交流する。新しいタイプの積極的賃貸経営のイメージがここにあります。

デイトナハウスの
ある暮らしLife⁰³with
DAYTONA HOUSE×LDKOWNER
栗林 秀光さん

特長のあるガレージアパートを真に求めている人に情報発信するには、従来の不動産紹介のポータルサイトでは難しい。例えば賃貸サイトで「ガレージ付き 2LDK 安い順」で検索しても、GLBは出てこないからです。栗林さんは、エリア053のアカウントでSNSを駆使して、モーターライフの情報発信をされている、これからの時代の新しい大家さん像を体現している方なのです。



GLBのユーザーは、鉄骨の素材感や1Fのハードボイルドなガレージ空間、2Fの力強い鉄骨の梁と豊かな吹き抜けなどにほれ込んで、ここでの暮らしを始めています。それに代わるような物件はそう簡単には

北海道は苫小牧市内にあるガレージアパートGLB。その名も「エリア053」は、デイトナハウスの軽量鉄骨ガレージアパート第1号として2年前にデビューしました。3棟で世帯数は26世帯という大型のガレージアパートです。第1号物件ということで、当初の入居率は思うように伸びませんでした。しかしこのアパートの良いところは、大家さんの栗林さんの積極的な賃貸経営です。大家さん自身がクルマ好きで、モーターライフ関係の交友も多岐に渡っています。そしてその交友関係を利用して、地道に部屋を埋めていかれました。そして今では空室はほとんどゼロとなっています。

見つかりません。必然的に満室経営に到達しました。大家さんの、クルマ好きならではの積極的な賃貸経営。今回私たちはその典型的な実例を取材しました。それは地元のバイク好きに向けたイベント「サンドカーニバル」へのアパート名「エリア053」名義での協賛と出店です。その会場は、北海道全域からサーファーが集まるスポット、苫小牧の海岸線の浜厚真。その美しい砂浜を愛機で400m走り抜けて勝敗を競うトーナメント方式。美しい砂浜に轟く爆音、サンド上を走る為運転の隠れたテクニックなど見どころ満載です。当然当日の来場者には、鉄骨ガレージアパートエリア053の名前は知れ渡ることとなりました。打ち上げもエリア053でBBQ。イベントを主催しているグループを招いて最高の夜になりました。

AREA053

デイトナハウスのガレージアパートGLBの第1号物件として、本誌にも何度も登場した有名物件。3棟、26世帯というかなり大型の物件。北海道仕様のため、ファサードのサッシはガラスウールではなく、樹脂サッシを装着、断熱は板状の断熱材ネオマフォームで全面外断熱。



入居に関するお問い合わせ先

ビッグFC 苫小牧中央店
0144-82-8220 big-tomakomai-chuo.cbiz.co.jp